

平成 30 年度 第 1 回 日野町校区審議会議事録

項 目	内 容 記 録
1. 期 日	平成 30 年 11 月 19 日（月）13:30 開会
2. 場 所	日野町役場 大会議室
3. 開会（閉会）	13:30～15:45
4. 出席委員等氏名	委員：本名俊正、山本武史、神庭賢一、下村敏彦、其山守美、後藤宣明、伊田忠人、緒形明朗、高田美樹、長谷川弘信、内藤佳代子、遠藤公俊 生田進教育長 事務局：砂流誠吾、遠藤律子
5. 委 嘱	・教育長より委員 15 名（欠席 3 名）に委嘱状付与
6. 教育長あいさつ 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月議会に校区審議会について提案し、可決期間についての質問があり、2 年以内を目途とすると回答 ・ H32～小学校、H33～中学校が新学習指導要領の完全実施となる すでに道徳科、小学校では英語科が導入されたり、プログラミング教育が実施予定 教育が変化し、一説にはこの先半分の仕事なくなる、AI がとって替わると言われている ・ 日野町は少子高齢化が進んでいる 日南町は 30 年先を進んでいるため、それを見越した対応をしていると言われていたが、日野町は 35 年以上先を行っていると思う その中での日野町の教育の在り方を審議いただきたい 忌憚のない議論により日野町の将来、教育の在り方の方向性を示していただきたい
7. 委員自己紹介 委 員	<p>(※お名前の紹介以外で発言があった内容を記載します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は鳥取大学名誉教授、一年前までは学長顧問としてグローバル人材育成を担当し海外に学生を派遣していた 6,000 人のうち 400 人を派遣 その前は副学長理事として 6 年間、教育担当 その前は農学部の組織改善を行った 副学長をしていた頃は、世の中が大きく変わり、スピードが速い、人口が減少する時代であった グローバル人材育成をしていた頃は、学生を海外に派遣するとたくましく、自信をもって帰ってくる 海外現地に行って研究すると、自分で進んで仕事をする、言

	<p>葉の勉強をする、不便なため自分でコミュニケーションをとらないと生活できないからたくましくなる</p> <p>日本や砂漠の土壌学をするうえで色々な土を研究してきた経験がこの会に役立てばと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学卒業後、中学校で4年、高校で2年間非常勤講師として理科教育に携わっていたことが、日野町の教育の発展に役立つと思う ・ 学校現場から離れ十数年経つが、孫2人の話を聞いていると随分教育が変わっていると思うので、自分も勉強したい ・ 小規模校をいかに生かすかということに3年間取り組んできた、そういう思いで意見を言う ・ 本年度29名の子どもたちとがんばっている ・ 昭和57年日野小と統合し根雨小となった頃は266名の児童がいた、今年は54名となり驚いている ・ 来年は46名、再来年は44名となり非常な勢いで少子化が進んでいるので、校区審議会でも色々議論したい ・ 日野町出身ではないが、少子化や変化の激しい時代となり、知識や合理性を突き詰めた教育より、人間としての力を身につけないと社会に出ても通用しないと思っているので、より良い議論をしたい ・ 転勤により全国4校を転校、子どもが多い時代で、40人以上、12クラスを経験、毎回新しい人間関係を作らなくてはならず、いじめられたり、いじめたりしたこともある ・ 相性が合う先生や合わない先生と出会ったりし、小学6年生の時に少人数の根雨小に転校、子どもの頃の出会いと別れを体験してきたことが自分のバックグラウンド、人格形成に影響を与えていてどこに出かけても緊張することはない ・ 審議会に参加し日野町の教育の将来、あり方に影響すると思うと責任を感じるので、慎重に考えていきたい ・ 保小連携が見えづらいところもあるので、話を聞いていき意見を述べたい ・ 地域から選任された一住民として、意見を述べたい
<p>8. 校区審議会についての説明</p> <p>課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (1) 日野町校区審議会条例 資料2 説明 ・ (2) 日野町立中学校等設置条例 資料3 説明 中学校 1校 小学校 2校 ・ (3) 日野町立小・中学校通学区域に関する規則 資料4 説明

	<p>中学校 全町1区</p> <p>小学校 別表 日野町全図…赤は根雨小、青は黒坂小</p>
<p>9. 会長、副会長選出</p> <p>課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日野町校区審議会条例 第4条 委員の互選により選出 事務局より選出 会長 本名俊正 副会長 神庭賢一 ・会長、副会長 承認
<p>10. 会長、副会長あいさつ</p> <p>会長</p> <p>副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日野町の児童生徒数が予想以上に減少している 子どもたちは日野町、鳥取県、日本の将来を担っている 生き生きと、のびのびと仕事をし、次世代の子どもたちを育てていくとすると、この審議会の在り様は非常に重要である 志を持ちふる里を大事にする子どもたちを育てていけるような教育の仕組みをつくるため、学校の在り方を皆さんと考えていきたい 中学校との連携も含めて、様々な学校の在り方を検討していきたい ・学校は退職したが、現在も小中学校と関わりをもっている 子どもたちの未来を一緒に考えていきたい
<p>11. 諮問</p> <p>会長</p> <p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8 諮問についてお願いします ・日野町立小・中学校等の設置及び設定について <ol style="list-style-type: none"> 1 諮問事項 小中学校の設置及び校区設定 2 調査及び審議内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒数減少に対応した学校の在り方 (2) 保小中一貫教育の視点から見た学校の在り方 (3) 小学校統合又は義務教育学校の設置等、新たな学校を設立する場合の位置 3 諮問理由 児童生徒の減少に伴う少人数学級編制や、人間関係の固定化の課題が指摘されている 体育のボール運動、音楽の合奏など多くの人数で行う学習活動の困難性や、多様な意見や価値観等に触れる機会が極めて少ないことが課題として指摘されている 一方、個に応じた指導、地域との深い関わりの中での教育の充実により学力向上、人間形成が図られていることが、少人数の良さとして認められている

<p style="text-align: center;">会 長</p>	<p>保小中一貫教育の推進により、保小、小小、小中の連携が進んでいることから、小中一貫教育の充実のために、小中一貫型小中学校、義務教育学校についても一つの方向性として検討する必要がある</p> <p>少子化が進み児童生徒数の増加が見込めない状況を鑑み、今後の学校の在り方を早急に検討しなくてはならない</p> <p>将来を担う子どもたちにとって、ふさわしい学校の在り方について審議されることを諮問する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我々大人が真剣に考えていく問題、何回か審議会を開催し、議論して結論を出していきたい
<p>12. 概要説明</p> <p style="text-align: center;">課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (1) 小中学生の推計人口 資料 5 説明 S50～H30 児童生徒数の推移 S57 日野小と根雨小が統合 250 人以上 H30 以降 根雨小 50 人前後 S59 根雨中と黒坂中が統合し日野中となる 200 人以上 H30 以降 日野中 約 70 人から 30 人前後まで減少 H13 菅福小と黒坂小が統合 約 60 人 H30 以降 黒坂小 29 人 以後横ばい ・ (2) 日野町立小中学校 学校統合に対する策定計画 資料 6 説明 S43. 7 月 日野町教育委員会が策定 S59 中学校統合 1 中学校 S48 根雨、真住、板井原小統合 1 小学校 S53 日野小学校、小林分校統合 H13 黒坂小、菅福小統合 1 小学校 S57 根雨小、日野小統合 S43 策定の統合はすでに実施済 ・ (3) 「日野町の子どもたちが、心身ともに健やかに成長するために、学校教育の現場の環境をどのように整えていくべきか」について（提言） 資料 7 説明 H19. 12. 12 日野町子ども育成会議 提言 日野町の学校では、小規模校で、少人数学級の特性を生かした学校運営により、学力向上・人格形成に成果をあげていることから、根雨小と黒坂小は当面の間統合を考えないで、長所・利点を生かした教育を推進し、少人数指導や特別支援教育の充実を図ることとする この提言に基づき、H21 から小中一貫教育、H23 から保小中

一貫教育を推進し連携に力を入れている

- ・ (4) 第2次日野町教育大綱 資料8 説明

H29.5月策定 H29～32年度

P4 3. 学びのセーフティネット

教育環境の充実と学習機会の確保

人口減少に対応した学校教育の充実

子ども達の数が減少する中で、小学校の統合、小中一貫校への移行または義務教育学校の設置を含め、小学校・中学校のあり方はどうあるべきかを町民とともに考え、将来にわたって子ども達の学びを保障できる教育制度及び教育環境を検討し、整備をすすめる

あわせて、近隣町の小中学校との連携を図る

このようなことを検討しながら、本町の計画を進めたい

- ・ (5) 公立小学校・中学校の適正配置 資料9 説明

文部科学省 H27.1.27 手引作成

P2 学校規模の適正化に関する基本的な考え方

教育的な観点

学校規模の適正化を図る上では、第一に学校の果たす役割を再認識する必要がある

学校規模の適正化の検討は、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの

地域コミュニティの核としての性格への配慮

小中学校は各地域のコミュニティの核としての性格を有する

学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みであり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っている

学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれる

- ・ (6) 小中一貫した教育課程の編成・実施 資料10 説明

H28.12.26 文部科学省 手引

P9 (1) 義務教育の目的・目標の創設

小中学校共通の目標として義務教育の目標規定が新設

P17 小中一貫教育制度

<p>会 長</p>	<p>制度の3類型 ①義務教育学校 ②併設型小学校・中学校 ③連携型小学校・中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの日野町での検討結果、文部科学省の考え方について説明された
<p>13. 意見交換・質疑応答</p> <p>委 員</p> <p>課 長</p> <p>会 長</p> <p>委 員</p> <p>課 長</p> <p>会 長</p> <p>委 員</p> <p>課 長</p> <p>会 長</p> <p>委 員</p> <p>課 長</p> <p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問に対して、期限やスケジュールは決まっているか、また審議会は審議のみで、視察等はないのか ・任期は2年間、できれば2019年度末までに答申を出していただきたい ・視察等の予算措置は行っていないが、審議中に調査や視察が必要であるということなら考えたい 経費のかからない方法もあると思う ・1年半の間で審議し答申を出したい ・参考となる学校の視察や、必要な資料提供も必要 ・少人数学級の現状と、教育の内容はどうなっているか 調査の対象としていくのか ・教育の内容、子どもの意識の調査について審議会より依頼があれば実施する ・少人数学級の学校教育については、学校長が審議会委員であるので話ができる ・教育の現状については、委員である学校長が説明したり、場合によっては学校現場を見学することもある ・他町との合併等は考えず日野町内のみで検討するのか ・町村合併ではなく組合立の学校も考えられる 現状では日野町だけで、子どもたちの教育はどうあるべきか 検討していきたい ・日野町の教育を第一に考え、そのうえで他町村との組合立学校も選択肢としてありえる 組合立となると日野町に学校が残らないこともあるので、現状では日野町に学校を残して教育の在り方を考えていく ・校区審議会答申はどのような形ですか 議事録等はどのように公開する予定か 答申を受けてどのような形で議会に反映していくのか ・来年度末を目途に答申を教育委員会あてに出していただきたい ・審議会は公開とし、内容も広報紙やホームページに概要をまとめたものを掲載予定 ・教育委員会に提出された答申を議論し、教育委員会としてま

<p>委員 課長 委員 会長</p>	<p>とまったものを総合教育会議の中で話をし、最終的には議会に提案し町長が判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の審議会の予定は具体的にどのようになるのか ・3～4ヶ月に1回程度開催、次回H31.2月開催予定 来年度は学期に1回程度開催予定したいがどうか ・来年3学期には結論を出すためには、2学期までの審議会で検討しなくてはならない ・場合によっては審議会を増やしたり、別に視察に行ったりして資料を作成し、そのための予算も必要になる可能性がある日野町の将来に関わることなので、なるべく丁寧に時間をかけながら行いたい
<p>14. 議 事</p> <p>会長</p> <p>校長</p> <p>校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) 今後の審議の計画・内容等について 学期に1回程度開催、次回は来年2月 資料の準備と、日野町以外の状況を把握しながら進めたい 他の市町村がどのようにこの困難を乗り切ろうとしているのか、10年後20年後を見据えて検討したい ・各学校の現状など内容について 小中学校の現状を各学校長から報告願いたい ・児童29名 本来は複式のところ1、2年生は単学級、3、4年生は複式、5、6年生と特別支援学級は町の協力金により単学級となっている 最大7名、最少3名の学級編制 きめ細やかな指導ができることが良い点 子どもたちが手を差し伸べられることを待つてしまうことが良くない点 常に同じメンバーとの活動となり意見が広がりにくくなる 人間関係も変わらないことも課題 1、2年生の音楽や体育の授業では合同で行う工夫をしている 3～6年生も同様 表現力、相手に伝える力を養うため、外に出かけて行って発表したり、小小連携の場を利用したりしている 普段から校内でそのような活動ができないことが課題 ・少ない人数できめ細かい授業ができている 全国学力学習調査では、全国や県平均と同程度 少人数のため学年に格差があるのも実態 バス通学や外遊びの減少により体力が低下していたが、現在は県平均程度の結果が出ている

<p>校 長</p>	<p>同じ集団内での仲間づくりにおいては、比較的仲良く活動している 保小、小小、小中連携での取り組みを進めている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えがなく、人間関係の固定化が課題 <p>以前1年生を2クラスに分けた時、競争心が生まれて良い効果があった</p> <p>T2など行き届いた指導を行っている</p> <p>部活動の問題 野球、サッカー、バレー部は合同チームで出場している状況 生徒は単独チームへの思いが強い</p> <p>ソフトテニスも団体戦があり、3ペア1組のところ2ペアで出場している状況</p>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの保育所から2つの小学校に分かれることで、メリットデメリットがあると思う <p>各校長から人間関係の固定化の問題を話されたが、小学校が統合するとさらに固定化してしまうと思うが、どのようなイメージがあるのか</p>
<p>校 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で分かれることでリセットされるが、中学校でまた一緒になっても特に問題はない
<p>委 員 校 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の固定化は何が問題なのか ・クラスが変わると新しい友達ができる <p>友達が固定化するといろいろな考え方に触れる機会が減っていく</p>
<p>校 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化が必ずしも悪いとは思っていないが、現在は縦割り活動などで良い関係が続いている <p>固定化によって、いじめや評価が変わらないなどの悪影響が考えられるが、特に良くないとは思っていない</p>
<p>校 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・固定化の良い面は、しっかりと友達のことが分かっていること、デメリットは一面しか見えていない場合レッテルを貼ってしまい、いじめ問題などにつながる <p>異学年交流や関わる教員が変わることで、いろいろな人間の見方ができる</p> <p>固定化により友達の関係が深まる良い面ができるように取り組んでいる</p>
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じクラスを分けることで、刺激のし合いにより競争心が生まれ学力が向上することもある <p>子どもの数は増えることは考えにくいので、学校の在り方や教育の仕組みを考える必要がある</p> <p>町としても子どもを増やす施策について考えてほしい</p> <p>学校を変えることになったら、予算措置などで少なくとも4</p>

	<p>～5年はかかると思う 現在の2歳児が関わることになる</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校では丁寧に児童生徒に見ていると実感する <p>さらに伸ばす工夫を共に考えていきたい</p>
<p>15.その他</p>	<p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 町村合併、学校統合を視野に入れ考える必要はある 少人数を生かした教育を推進し統合しないという提言から10年経っており状況も変わっている 保護者が学校へ行く機会も以前より多くなっているが、PTAの数も減ってきて負担が増えており、家庭教育においても余裕がない状態であることも問題 PTAの代表の方にはまとめた意見を審議会で出していきたい <p>会長</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの学校は地域とPTAの力がないと円滑に運営することが難しい <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人としては学校が地域に存在してほしい気持ち強い できれば小規模校の良さを生かしつつ学校運営をしてほしい 町で子どもを増やす施策を考えてほしい <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年学校の在り方を議論してきたが、一つの保育所からなぜ小学校で分かれるのかという意見がある 根雨小と黒坂小では温度差があると思う ただ、現状を見るとそうも言ってもらえない 新たな学校教育の在り方があればその方向もよいのではないかという意見もある 子どもの人数は、現状では増えていかない状況 真剣に学校教育の在り方を議論していきたい <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の時、保育所の灌水を心配した 保小中一貫の学校についても検討する余地がある PTAでも話し合いながら意見を吸い上げていきたい <p>会長</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取市は義務教育学校が3つある 湖南学園が建って10年経った 福部未来学園が今年4月開校 幼稚園を含めて10年生 鹿野学園が今年4月開校 6年生を中学校に入れて5-4制 来年度からは2小学校と1中学校が統一され9年生の学校もできる <p>委員</p> <p>義務教育学校も様々な形があり、どういう教育か新しい内容が出てこないかぎり統合もできない 単なる人数合わせではいけない</p> <p>新しい時代に合った学校の在り方を考えていく必要がある</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、保育所保護者を対象に学校統合についてアンケートを実施した結果、根雨地区と黒坂地区で意見が分かれた 根雨は統合に賛成、黒坂は絶対反対という結果だった 根雨は統合したら根雨小学校になると思っていて、黒坂は統合したら学校が無くなると思っている 意見をまとめるのは難しい 自分は慎重派 中学校が根雨地区にあるので、統合したら黒坂地区に小学校ができる可能性もある 当時のアンケートに少し不備があったと反省している
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・黒坂小の保護者は物理的に学校が遠いから反対するわけではなく、地域の方が学校が無くなると地域が疲弊してしまうと考えられていると思う 統合しても少人数に変わりなく子どもは減っていく、問題の先送りである 現状の少人数でなにができるかを考えているかいらないかが根雨地区と黒坂地区の保護者の温度差 ・人間関係の固定化は、人を知る努力をしなくなるため問題である ソフトテニスなどの対外試合に出場することで、人間関係を広げていくことが保護者としてできること
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の義務教育学校、小中一貫校など良い取組を探すことも必要
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日野町はエアコンや ICT などの教育環境が整っているが、教育投資をしてもらうためにも学校はひとつの方が良いと思う 子どもたちが切磋琢磨し、ゆとりを持った教員配置ができる 将来の教育ビジョンをしっかりと立てていくことが大事 4年5年後を見据えた保育所保護者の意見が大事だと思う 近隣では外国人労働者が増え外国語教育の問題が大きくなっているが、日野町の5年後を見据えた議論が必要
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・校区審議会と並行してコミュニティ・スクール導入に向けて動いている 地域とともにある学校という視点、地域の核となる学校の在り方、地域の方の意見も無視してはいけない
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで提言してきたことが本当に子どもたちのためになっていたのか 子どもが生まれて15年先が見える教育の在り方、先輩や地域が見える教育を考えていくことが大事
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・黒坂小での3年間は、少人数を生かした小規模校の教育を進

<p>会 長</p> <p>課 長</p>	<p>め子どもたちは力をつけてきた 地域と保護者の皆さんが一体となった教育ができていた 地域の方のところに子どもたちが来ると、相互作用により地 域が元気になる 義務教育学校等の事例、資料を集めたり視察をして議論して いきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかりとした意見を持った方々の会だという印象 <p>日野町、日本の将来のために子どもたちにどのように育って ほしいのか、そのためにどのような教育、学校が必要なのか 学校の先生が地域、保護者と共に学校運営をするようになる 日野町独自の新しい教育を提言し、新しい学校の在り方を探 っていくために、モデル校を視察する予算をつけることも必 要になるかもしれない</p> <p>子どもの発達段階が変わってきているため、義務教育学校な ども色々な形がある</p> <p>学校形態と現状の日野町の児童数などの資料を準備してほ しい</p> <p>PTA も地域の中で討議していただき、学校長には説明や現場 視察も含めてお願いすることがあるかもしれない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回までに資料を準備したい <p>次回日程については来年2月を予定しているが、会長と相談 し決定したら通知する</p> <p>(15:45 審議会終了)</p>
-----------------------	---

平成 30 年 11 月 19 日

日野町校区審議会